

< 海外情勢 >

台湾の独立は日本安全保障の基礎

「憲法 9 条は卑怯者の隠れ蓑」

藤 井 巖 喜

(国際政治学者)

12月8日に台湾の自由と独立を応援する日本人の会を筆者が中心となって開催する運びとなった。会場参加者のチケットは幸いなことに既に完売しているので、台湾独立を応援する方は、ライブ配信チケットを購入して、ご覧いただければ誠に幸甚である。詳しくは以下の URL を御覧いただきたい。

～ 自由で開かれた台湾を守る～

「ONE TAIWAN」プロジェクト シンポジウム

https://in.worldforecast.jp/FUTASJ_1912_Liveck

来年1月11日に台湾で総統選挙と立法院の選挙が同時に行なわれる。総統選挙は民進党の現役総統・蔡英文氏と国民党の韓国瑜（かん・こくゆ）氏の対決である。中華人民共和国に対して、あくまでも台湾の独立と自由を守ってゆこうというのが蔡英文総統であり、筆者としては蔡総統の再選を応援する立場である。

現在の中国国民党は中国共産党との連携の方向に流れている。中国共産党が台湾を併合するのを許容し、推進するのが国民党の立場である。このことは前・馬英九政権の時に明らかになった事実である。

米ソ冷戦時代は、国民党は共産党に対して断固戦う立場であったが、鄧小平の改革開放路線が定着して以来、国民党はスッカリ共産党に融和的になってしまった。別の言い方をすれば、共産党は国民党をうまく手なづけ、台湾を併合しようとする野心を隠していない。これに対して民進党は、あくまでも台湾の独立と自由を守ってゆこうという立場である。民進党は民主進歩党であり、国内問題においてはリベラルな立場をとっているが、台湾の独立と自由を守るという点では国民党よりはるかに徹底している。そこで筆者としては、民進党の蔡英文総統の再選を強く支持しているのである。

台湾が独立を維持することは、日本の安全保障の必要不可欠の基礎である。台湾が中華人民共和国に併合されてしまえば、日本の安全保障を確保することは非常に難しくなる。例え日米安保が堅固であったとしても、西方および南方から迫ってくる軍事的圧力に対しては、日本列島の防衛は非常に困難なものとなる。

これに対して台湾が自由な国家として独立を維持してくれれば、その独立台湾はおのずと親日的かつ親米的であり、日本の安全保障の最前線を形成してくれることになる。今日の日本に対する政治的かつ経済的な最大の敵は、中華人民共和国である。これは言い換えれば、中国共産党帝国である。

日本と台湾はこの中共帝国の脅威から自らの自由と独立を守るという点において、運命共同体なのである。自由な台湾なくして自由な日本はなく、また自由な日本なくして自由な台湾は有り得ない。そこで日本人の自由で独立した台湾を支援する声を台湾に届けたいと思い、12月8日の「One Taiwan プロジェクト」の集会を催すこととなった。台湾に想いを寄せる人々に、一人でも多く参加して頂きたいと思っている。

当日は私が話す他に、主な登壇者として、友人であり台湾独立建国運動の闘士である林建良医師に講演をお願いしている。その他、在日の台湾同胞の方や、李登輝友の会の渡辺利夫会長にもパネルディスカッションに参加していただく予定となっている。日本人は勿論、台湾の選挙で1票を投じることは出来ない。しかし台湾の自由と独立を応援することは出来る。台湾の有権者は、第1にアメリカの動向が大変気がかりだが、第2に日本の世論にも、我々が意識する以上に大きな関心を払っている。

アメリカはトランプ政権が誕生して以来、台湾の独立支持の方針を明確に打ち出している。これは、台湾人にとっては心強い限りである。しかし日本の政界や財界のリーダーは、ハッキリと台湾独立支持を打ち出せないでいる。日中友好の呪縛にかかり、とにかく中国共産党を恐れる人士が日本のエリート層には多過ぎるのだ。安倍首相といえども、台湾の独立を支持する、あるいは香港の民主化運動を擁護するといった発言は公には出来ないでいる。

そこで国会議員でない我々民間人が敢えて声をあげて、日本人の独立台湾支持の声を結集し、台湾に届けたいと思っている。多くの日本人が台湾独立を支持していることが分かれば、台湾人は大いに勇気が湧いてくる。そして来年1月の蔡英文総統の再選を確実なものにすることが出来るだろう。国会に議席がないと出来ないことも多いが、国会に議席がない民間人だからこそできる事もある。

国会議員は与党も野党も、中国共産党の呪縛で台湾支持の声をあげることが出来ない。民間人の、そして「**日本人の良心を結集**」して、独立台湾支持の大きな声を台湾に届けたいと思っている。

なおこの集会の後、林建良医師と私は訪台し「**台湾の独立派の支援集会**」にパネリストとして参加することになっている。その場でも日本人の台湾独立支持の声を、台湾の世論にシッカリと伝えたいと思っている。

弱いもの虐めを許す卑怯な日本人

かつて日本は、台湾を **50年**にわたって統治した。そしてその好影響が残り、台湾は現在でも世界一親日な国と呼ばれている。現在の台湾は「**自由で民主的な国家**」であり経済的にも先進国といってよい発展段階にあるが、中華人民共和国の虐めにあって国連のメンバーとなることも出来ない。謂わば、暴力的な虐めっ子が優等生の台湾を虐め抜いているのである。本来、台湾を育てたのが日本なのだから、ここで正義感と勇気を奮い起こして中国共産党の虐めから台湾を守るのが、本来の日本人がとるべき行動である。

ところがチャイナの強大さに怯える日本人は、世界一親日的な、そして自由で民主的な国家である台湾を守ること出来ずに、この虐めを傍観しているのである。実はこの虐めを傍観している卑怯さが、今日の日本社会を根本的に腐らせている原因である。よく考えれば「**北朝鮮による日本人拉致問題**」や「**学校の虐め問題**」でも根は1つである。それは目の前に「**行なわれている不正行為**」を、勇気をもって糾すことなく日本人全体が卑怯者になって「**見て見ぬ振り**」をしているのだ。

現実から逃避していると言ってもよい。**憲法9条**は、まさにこのような思想から生まれた条文である。虐めを許している日本人の卑怯さに日本人自身が、気が付いていない。心理的病は深くなっている。虐め事件が起きるとよく学校が「**命の大切さを教える**」というが、これは全く無意味である。悪いのは虐める子なのであって、教育者は虐める子に厳罰を与え「**他人の命の大切さ**」を教えなければならない。他人の生命と人格を尊重することを教えなければならない。自分の命の大切さは、人間も動物であるから本能的に知っているのであり、今更教える必要などないのである。悪は処罰しなければ蔓延るものである。

憲法9条主義者は、悪とは戦わなければならないという思想事態を否定する。

世の中に悪者はいないというのが、憲法9条主義者の前提なのである。

「**虐め**」は、虐めている者が一番悪いに決まっている。次に悪いのは、虐めを許容している者「**見て見ぬ振り**」をしている人間である。これは卑怯者である。

虐めを見て可哀そうだと思ったら、勇気をもって止めなければならない。その勇気を持ってというのが「**本当の教育**」である。現在の教育は、やたらと優しさを強調するが、虐めを「**見て見ぬ振り**」をしているのが優しさだろうか。

それには力が必要である。優しさの裏付けに力がなければ、虐めを止めることは不可能なのである。虐める奴は卑怯者であるし、それを「**見て見ぬ振り**」をしている者も卑怯者である。日本人の台湾に対する態度を見てみると、つくづく卑怯であると感じる。そして北朝鮮拉致被害者に対する態度も極めて卑怯である。

同胞が専制国家に拉致されたのであるから、軍事力を用いても彼らを奪還するというのが本来の国家の外交である。「**交渉…交渉…**」といっても背後に軍事力の威嚇がなければ、平和的交渉が進展することはあり得ない。

北朝鮮は小なりといえども立派な**「悪の帝国」**である。この国と戦っても拉致被害者を奪還するのだという国家意志がなければ、彼らを交渉の場に引き出すことすら出来ないだろう。悪とは戦わなければならない。悪を正すためには、自らが傷つくことを覚悟で戦わなければならない。これを教えるのが**「道徳」**である。

この当たり前のことを教えていないから日本人は皆、腑抜けで卑怯になってしまったのだ。**「みんな仲良く」**の建前のもとで、虐めが横行して悪がはびこっている。悪と戦う勇氣と強さがなければ、悪は無制限に蔓延るのだ。虐める奴が卑怯者だというのは、虐めは正々堂々たる決闘ではなく、それ自体を隠蔽して行なう行為だからだ。虐める者は自らの虐めを隠しているのであり、それ自体が卑怯者である。こう考えてくると、日本人が国内で虐めを許容している態度がそのまま**「台湾・ウイグル・チベット・香港」**などに対する態度に現れている。また拉致問題に対する姿勢にも表れている。**憲法 9 条**は戦うことそのものを否定している。

戦って自らを守ることそのものを否定しているのだ。そして戦う力である国軍そのものの力を否定しているのだ。これは卑怯者そのものである。

虐めの被害者に一言いうことがあるとすれば、それは彼らも憲法 9 条の被害者だということだ。優等生で物分かりのいい人間だけが、この憲法 9 条思想に洗脳されてしまい、自らの誇りや生命を守ることすら放棄してしまっているのだ。虐められた子は、自ら立ち上がって戦うことを知らず、黙って虐められている。

そうすればするほど、虐めはエスカレートする。弱い者でも戦って抵抗すれば、虐める側もたじろいて虐めには限界が生まれてくる。極端な抵抗に遭えば、虐める側も手こずって虐めを止めざるを得なくなる。もし虐められている子に命の大切さを教えるというならば、自らの命を守る為に戦うことを教えなければならない。そうしなければ虐めは蔓延し続けるのだ。

世界一の親日国**「台湾」**を守ろうとせず、ウイグルやチベットや香港に対する中共帝国の虐めを見て見ぬ振りをし、北朝鮮によって拉致された同胞を危険を犯しても救おうとしない日本人は、世界から見ればとんでもない腑抜けであり卑怯者である。ただ外国人は、親切だから露骨に言わないだけである。あるいは腑抜けで卑怯者の日本人が減びるのを傍観しているだけである。

「憲法 9 条」とは、こうした卑怯者たちが身を隠す**「絶好の隠れ蓑」**なのである。